

大学の世界展開力強化事業
(平成24年度採択)
平成28年度フォローアップ結果について

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
平成28年9月6日(火)
独立行政法人 日本学術振興会

■フォローアップの目的

「大学の世界展開力強化事業」の適正な事業管理を行うとともに、各大学における円滑な事業実施の支援、事業成果の還元のため、毎年度各大学の取組の進捗状況を確認するフォローアップを行う。

【参考：大学の世界展開力強化事業公募要領（抜粋）】

6. その他

(2) 事業の評価等

毎年度のフォローアップ（後述の「中間評価」実施年度は除く。）、支援開始から3年目に平成25年度までの取組状況に関する中間評価、支援終了後（支援開始から6年目の平成29年度）に支援期間全体の実績に関する事後評価を実施し、毎年度のフォローアップ及び中間評価の結果は、補助金の配分に勘案されるとともに、事業目的、目標の達成が困難又は不可能と判断された場合、事業の中止も含めた計画の見直しを行うことがあります。

また、評価等については、委員会で定める評価方法、基準等に基づいて行われます。

■ スケジュール

- ・平成28年5月10日
フォローアップ実施について文部科学省から各採択大学に通知
- ・平成28年6月8日～6月10日
各採択大学からフォローアップ調査票の提出
- ・平成28年9月6日
大学の世界展開力強化事業プログラム委員会にフォローアップ結果の報告
- ・平成28年9月
フォローアップ結果の公表

■フォローアップの総括

平成24年度に採択された14件の事業について、採択時の構想の各観点における進捗状況、特記すべき事項や構想時に設定した達成目標に対する平成27年度実績(派遣・受入の学生数)等のフォローアップを行った。

各事業の取組、課題等や学生交流の進捗状況を見ると、それぞれの事業の目的や特色等を反映した取組が行われている。特に、海外連携大学と協力して事業の広報、周知に努めた結果、学内外の連携を通じて事業の活性化が果たされた事例が見受けられる。一方で、新たな課題や問題点も浮上しており、各採択大学はその対応や解決に努めている。

事業全体の交流学生の実績を見ると、平成27年度は派遣・受入いずれもほぼ目標に達しており、事業の最終年度(平成28年度)に向けて、数値目標の達成が見込まれる。

今後も、本プログラムの趣旨に則り、各事業が更に充実し、成果を上げられることを期待する。

1. 取組の進捗状況

「大学の世界展開力強化事業(平成24年度採択)平成28年度フォローアップ調査票」(以下、調査票とする)による各採択大学からの回答に基づき、下記①～④の各観点における取組内容の進捗状況について、抽出・整理を行った。

- ①交流プログラムの内容
- ②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
- ③外国人学生の受入れ及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

①交流プログラムの内容

(申請区分Ⅰ:○愛媛大学、香川大学、高知大学)

事業の本格実施3年を経て、学士課程のサービ斯拉ーニング・プログラムに参加した学生の中から、インドネシアへの長期留学、さらには修士課程進学を果たす学生が増えている。また、プログラムに参加した学生間ではSNSなどを通じ、自主的な交流や地域貢献をめざした自主的な活動が育ちつつある。

(申請区分Ⅰ:明治大学)

SENDプログラムについては、一昨年度のタイ、昨年度のベトナムに続き、今年度はフィリピンでも開始し、実施国を3カ国に拡大した。この他、タイのパートナー大学との間で、遠隔授業システムを介し双方向で講義を提供する等、事業規模の大きさを活かした様々な交流プログラムを展開した。

(申請区分Ⅱ:名古屋大学)

産業界との組織的連携を構築することを目的に、名古屋大学卒業生で企業幹部経験者が結成した任意団体であるASEAN-NAGOYA CLUBとの連携を開始した。同団体には研修先・インターンシップ先をご紹介頂いている他、外国人留学生を対象とした日本文化勉強会・ビジネス勉強会を開催して頂いている。さらに、外国人留学生の将来の起業支援(コンサルティング、日本企業とのネットワーク構築)についてもご議論頂いている。

(申請区分Ⅱ:九州大学)

本事業の枠組みで締結したダブル・ディグリープログラムにおける学生受入れが実現した。また、ショートターム交流プログラムは、本学独自の実質的な学部・修士一貫コースGVプログラムの第一期生を加えて実施したこともあり、受入・派遣両プログラムにおいて、構想時を上回る交流実績を得た。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

(申請区分Ⅰ:北海道大学)

「ASEANと日本における教育連携システムの発展を目指して」をテーマに教育交流研究会を開催し、大学院熱帯水産学国際連携プログラムをタイ・カセサート大学等と共同で運営している鹿児島大学水産学研究院との間で意見交換を行った。

(申請区分Ⅰ:東京医科歯科大学)

受入れ前後の2回、外国人学生を対象にアンケート調査を実施し、平成26年度のアンケートより得られた結果を27年度のプログラムに取り入れて改善を行った。

(申請区分Ⅰ:○九州大学、早稲田大学)

九州大学、早稲田大学、ASEANコア大学からなるIEFW委員会で成績の点検評価とそれに基づく改善、共同教材の開発、成績管理を統一して行っている。

(申請区分Ⅰ:慶應義塾大学)

一定基準を満たした参加学生に対してサティフィケートを発行する独自システムの開発を行い(EBA e-portfolio)、EBAコンソーシアム内の教職員が各参加学生の学習状況を把握できることを可能とした。これにより、コンソーシアム全体で学習指導を行えるメカニズムを確立させた。

(申請区分Ⅱ:千葉大学)

事前授業及び海外活動に対する単位付与などの制度確立や、本学およびASEAN連携大学のコンソーシアムメンバーによる多面的な活動評価、という側面から質の保障を担保している。

(申請区分Ⅱ:名古屋大学)

国際開発研究科の長期派遣・長期受入学生に対して、個別大学方式の成績評価に加えてUniversity Mobility in Asia and the Pacific (UMAP) Credit Transfer Scheme (UCTS) 方式の成績評価を行うことが、チュラロンコン大学(タイ)及びフィリピン大学ロスバニョス校と合意された。

(申請区分Ⅱ:早稲田大学)

本学と各海外相手大学との間に「共同プログラム委員会」を設置し、カリキュラム、参加学生のケア、事業評価について、オンライン上または対面で、定期的に協議している。

③外国人学生の受入れ及び日本人学生の派遣のための環境整備

(申請区分Ⅰ:東京大学)

専任教員(特任助教)3名、および支援スタッフ(学術支援職員1名、非常勤職員(時間雇用)2名)3名の態勢で、外国人学生の受入、および日本人学生の派遣のための環境整備を行った。具体的には、長期派遣・受入に関わる学内での身分、出入国に関わる手続きの確認、単位の取得に関わる規定の確認、交流プログラム実施のための各連携大学における学事暦の確認などである。

(申請区分Ⅰ:京都大学)

本学と相手大学の学期が異なるため、受入学生のうち2年課程ダブルディグリーの学生については、本学の10月入学制度を利用して、学籍を初年度の10月から発効させた。3年課程では2年度目4月に学籍を発効させている。

(申請区分Ⅰ:○神戸大学、大阪大学)

各大学の担当教職員が学生の派遣・受入前から面談やメール、双方向遠隔授業システムなどで参加学生の興味・関心・知識や留学の目的を把握し、各学生の希望に応じた臨床科・研究室で実習・研修がおこなえるよう調整をおこなっている。

(申請区分Ⅱ:京都大学)

学部新生に対して、全学的にTOEFL ITP受験を課し、学部学生の英語力を均一の基準ではかれる体制を継続した。海外への短期派遣事業に応募する学生にはTOEFL ITPのスコアを提出させ、語学力基準として利用できるようにした。

(申請区分Ⅱ:九州大学)

派遣プログラムの質を高め、その学習効果を最大とするために、派遣前トレーニングプログラムの充実を図った。

④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

(申請区分Ⅰ:北海道大学)

本学がホストとなり開催した第3回日本・インドネシア学長会議の分科会(11月5日)において、ボゴール農科大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学の3大学が共同でPAREプログラムについて発表し、本プログラムの成果の普及に努めた。

(申請区分Ⅰ:○愛媛大学、香川大学、高知大学)

サービスラーニングの成果を発信、議論する成果発表会を開催した。当初、農学系の学部を中心に進められてきたサービスラーニング・プログラムは、日・伊6大学で全学部を対象としたプログラムとして拡がり、大学の国際化のひとつのモデルとなりつつある。

(申請区分Ⅰ:○九州大学、早稲田大学)

毎年行われている地球資源工学の国際学会や海外で行われた国際学会でスクールオンザムーブ参加学生が多数発表を行い、学会に参加した各国の研究者や関連企業へ本プロジェクトを周知することが出来た。

(申請区分Ⅰ:明治大学)

本事業特設ホームページでは、本事業に関係するプログラムを通じて留学を果たした本学・パートナー大学学生の声、日本語・英語及びパートナー大学学生の母国語で掲載することで、本事業の成果を広く周知するとともに、潜在的な留学希望者の掘り起しを図っている。

(申請区分Ⅱ:京都大学)

系統講義「京都で学ぶアジアと日本」258科目を開設してパンフレットを印刷、関連部局の新入生ガイダンス等を通じて広範囲に配布し、本事業で開講されている国際化関連科目の周知に努めた。

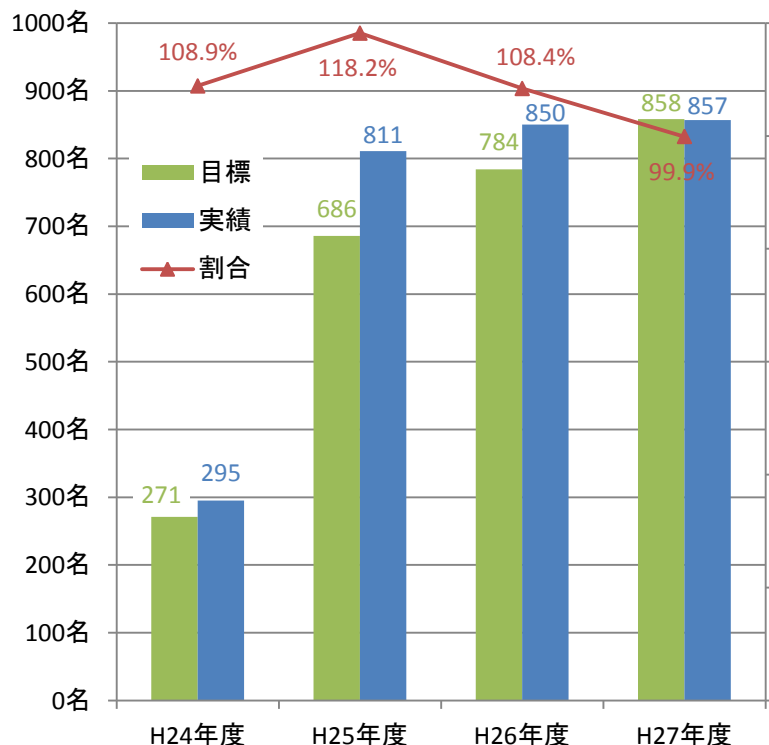
(申請区分Ⅱ:早稲田大学)

平成27年7月に最新のSENDプログラム参加者の声を集めた改訂版を作成し、広告媒体として積極的に活用した。

2. 交流学生数の実績(1)

(1-1) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【全体の状況】

例年ほぼ目標を達成し、単位取得を伴う派遣学生の割合も増加しているが、SENDプログラム該当者数は平成27年度に減少した。

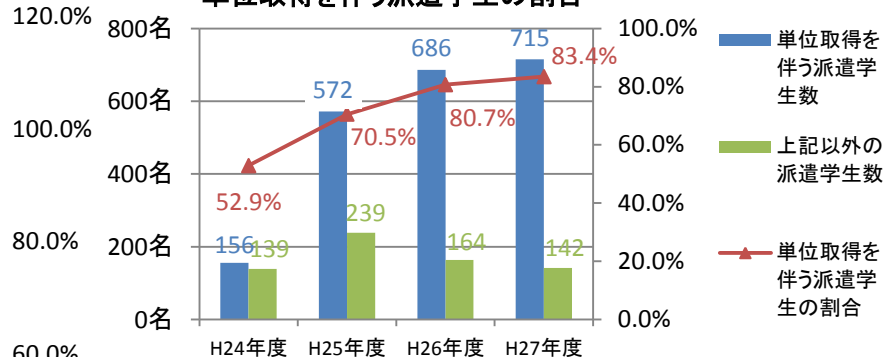


※SENDプログラム: Student Exchange - Nippon Discovery

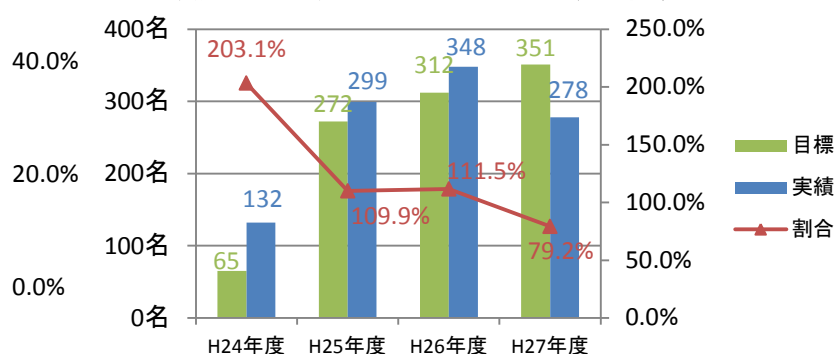
本事業のうち、日本人学生が留学先の現地の言語や文化を学習するとともに、現地の学校等での日本語指導支援や日本文化の紹介活動を通じて、学生自身の異文化理解を促すことを海外留学の目的の一つとして位置づけ、将来、日本とASEANとの架け橋となるエキスパート人材の育成を目指すもの

参考

単位取得を伴う派遣学生の割合



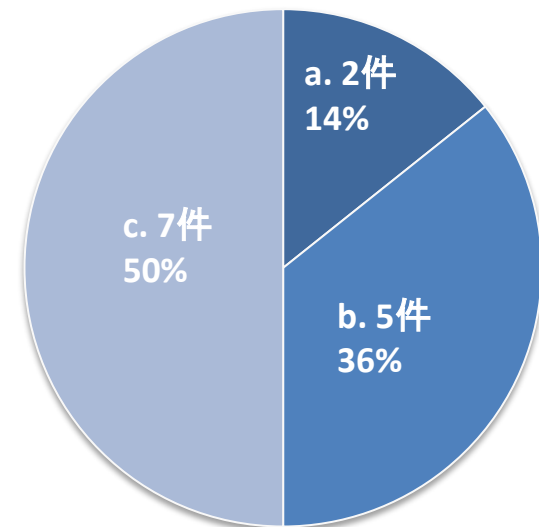
派遣学生のうちSENDプログラム該当者数



(1-2) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について
【各事業の状況(平成24年度～平成27年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上だった事業
- b. 100%以上200%未満だった事業
- c. 100%未満だった事業



※事業ごとの派遣学生数の詳細は別表1参照

(1-3) 交流プログラム(派遣)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

【平成27年度の達成目標に対し実績が上回っている事業】

(申請区分Ⅰ: 明治大学)

本事業に関連する先行プログラムの取組事例が他部局の注目を集めた結果、新たなプログラムの開発や学生交流を含む部局間協定の締結につながる、という好循環により、学生派遣プログラムは平成25年度の8プログラムから26年度の11プログラム、そして27年度は15プログラムと確実に増加し、参加学生も着実にその数を増やしている。

パートナー大学への交換留学を果たした学生の中には、過年度に実施した本事業関連プログラムにボランティアやサポーターとして参加したことによりASEAN地域への留学意欲を掻き立てられたという者もあり、こうしたケースを本事業参加学生のひとつのロールモデルとして、プログラム成果とともに積極的に発信したい。

(申請区分Ⅱ: 名古屋大学)

平成27年度には昨年と同様、学部生・大学院生、計形63名を派遣した。本プログラムの実施により、日本人学生間でのASEAN諸国に対する関心は着実に高まってきており、ASEAN諸国大学の中で、より自分の興味・関心について学べる大学への派遣を希望する学生も増えてきたことから、新たに一部自費にてカンボジア王立プノンペン大学へ短期派遣も実施した。また平成27年度には日本人の長期派遣学生が留学期間中に国際機関で3ヶ月のインターンシップを実施するなど、大学の枠を超えた活動が実施されるようになってきた。

(申請区分Ⅱ:京都大学)

平成27年度の派遣人数目標数87名に対して、102名を派遣し、所期の数値を達成した。うち日本国籍を有する正規学生は90名と大多数を占めており、日本人学生の海外での学習意欲を引き出すために、本プログラムが非常に有効であることが分かる。

国際連携専門教育におけるシンガポール国立大学・タマサート大学・ガジヤマダ大学・人民大学等との関係の深化は特筆すべきものである。特に、タマサート大学・人民大学との単位互換実現、国際連携共同学位への発展構想は、本プログラムの契機なしにはありえなかった。

【平成27年度の達成目標に対し実績が下回っている事業】

(申請区分Ⅰ:北海道大学)

3ヶ月未満の日本人学生派遣実績数は当初の申し込み人数より少なくなったが、昨年度に比べ3ヶ月以上の派遣学生数は、前年度に比べ4名増加となり順調に伸びている。平成27年度の日本人学生派遣の達成目標人数には満たなかったものの、単位を伴う日本人派遣学生の合計は昨年度と変わらない人数を保っている。

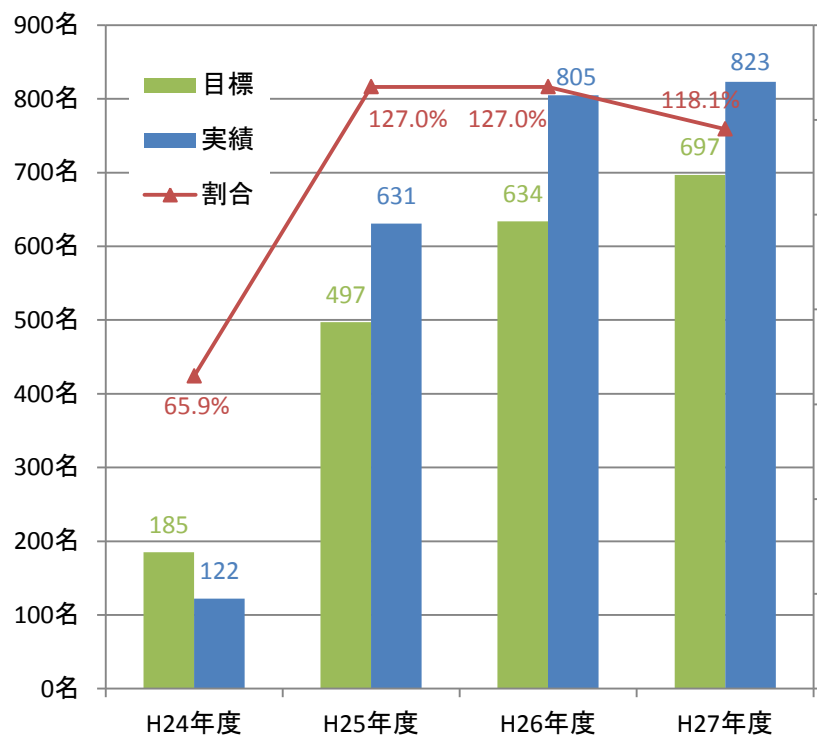
(申請区分Ⅱ:早稲田大学)

平成27年度は、短期派遣については前年比10名減の49名となったが、長期派遣については倍増の2名となった。長期派遣については、条件、内容ともに魅力的なプログラムに仕上げる努力はしているものの、既存のカリキュラムにおける研究や修士論文提出を重視してか、学生全体に長期の海外留学を敬遠する傾向にある。

2. 交流学生数の実績(2)

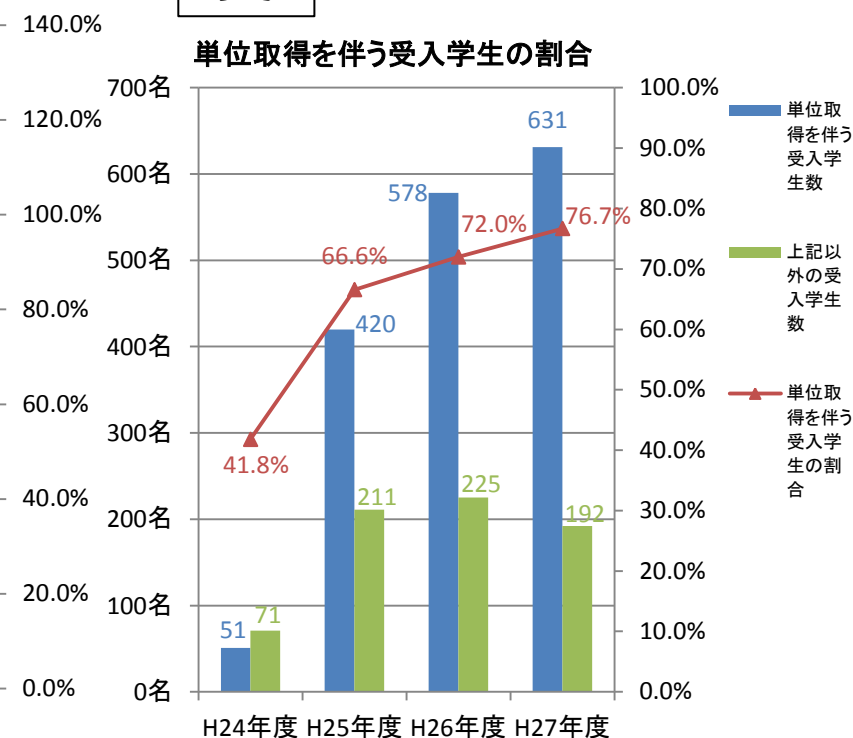
(2-1) 交流プログラムで受入れた外国人学生数(受入学生数)について【全体の状況】

平成24年度は初年度ということもあり目標を下回っているが、2年目の平成25年度以降からは目標を上回り、順調に進捗している。また、単位取得を伴う受入学生の割合も例年増加している。



参考

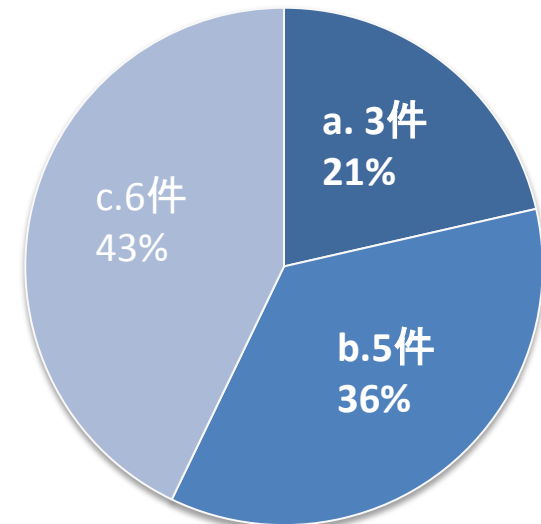
単位取得を伴う受入学生の割合



(2-2) 交流プログラムで受入れた外国人学生数(受入学生数)
について
【各事業の状況(平成24年度～平成27年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上だった事業
- b. 100%以上200%未満だった事業
- c. 100%未満だった事業



※事業ごとの受入学生数の詳細は別表2参照

(2-3) 交流プログラム(受入)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

【平成27年度の達成目標に対し実績が上回っている事業】

(申請区分 I : 東京大学)

当初計画を上回る水準で協定校の大学院生を受入れてきた。都市環境を衛生的に守る日本のこれまでの実践的な取り組みや最新の研究課題について、協定校の大学院生や彼らの指導教員らと情報を共有することが出来ている。こうした実践的かつ学術的な交流を行うことは、中長期的に東京大学が協定校との共同研究をすすめる上で有用なつながりを構築するものである。すなわち、こうしたネットワーキングによって現地調査が可能になったり、人材の交流が可能になったりするということである。平成27年度、28年度も、協定校のニーズに答えるべく、短期、長期プログラム共に、プログラムの充実を図る予定である。

(申請区分 I : ○神戸大学、大阪大学)

神戸大学医学部医学科では開設しているElective Programのホームページ (<http://www.med.kobe-u.ac.jp/elepro/>) で、プログラム参加のための必要書類や臨床各科のシラバス、受け入れ可能時期を公開し、大学・部間協定を締結している大学に在籍する学生であれば病院実習プログラム参加学生として受入がおこなえるようにしている。平成28年度もElective Programによる学生受入により、構想時の計画を上回る学生数の受入が見込まれている。

(申請区分Ⅱ：千葉大学)

当初予定人数を大きく上回っている。加えて、ASEAN各国におけるツインクルプログラムに対する期待と希望は非常に高く、各大学で選考倍率は10倍程度となっている。これまでの取り組みでは、受入学生と研究テーマや研究室環境は満足度が高い状況にあったが、今後、さらに受入留学生のための先進科学教育プログラムを精選化・高度化し、期待とニーズに見合うように鋭意改善を進めている。これらの改善取り組みにより、ASEAN各国からの千葉大学をはじめとして日本の諸大学の修士課程、博士課程への進学実績も上昇するものと考えられる。これらのことが好循環をさらに押し広げ、ASEAN各国との共同研究、大学院生の相互乗り入れ等により、日本の世界展開力はさら強化されるものと考えられる。

【平成27年度の達成目標に対し実績が下回っている事業】

(申請区分Ⅰ：○九州大学、早稲田大学)

当初参加予定だった学生が不参加になったことや予算の関係で人数の増加につながらなかった。28年度は、キャンセルがでないよう連絡・周知をさらに徹底し、プログラムの内容を充実させつつ、インターンシップ等での受入を積極的に行い、プログラムの目標達成に取り組む。「ダブルディグリープログラム」では、チュラロンコン大学との協定締結に取り組み、受入ができるよう予算面も含め体制を整える。

(申請区分Ⅰ：慶應義塾大学)

平成27年度は従来のフィールドワークと共に、新たにインターンシップと大学での学習を組み合わせたビジネスフィールドワークやITスキルに特化したITフィールドワークを加えた合計6つのフィールドワークを実施した。平成28年度は新たなフィールドワークを計画しており、インディペンデントフィールドワーク(学生自らが計画・実施)を受入れでも実施できないか検討中である。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(平成24年度採択)

(単位:名)

		取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)												うち、SENDプログラム該当者数			
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数									
						(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上					
						目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績				
申請区分Ⅰ	北海道大学	人口・活動・資源・環境の負の循環を転換させるフロンティア人材育成プログラム	H24	13	17	68.0	13	17	13	16	0	1	0	0	0	0	0	0			
			H25	30	3		30	3	12	0	18	3	0	0	0	0	0	0			0
			H26	30	24		30	24	12	22	18	2	0	0	0	0	0	0			0
			H27	30	26		30	26	12	20	18	6	0	0	0	0	0	0			0
			計	103	70		103	70	49	58	54	12	0	0	0	0	0	0			0
	東京大学	アジア都市環境保健学際コンソーシアムの形成	H24	3	10	340.9	0	0	0	0	0	0	3	10	3	10	0	0			
			H25	9	32		4	21	0	18	4	3	5	11	5	11	0	0			
			H26	10	33		8	24	0	18	8	6	2	9	2	9	0	0			
			H27	12	35		8	32	0	24	8	8	4	3	4	3	0	0			
			計	22	75		12	45	0	60	20	17	10	30	14	33	0	0			
東京医科歯科大学	東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を旨とした大学間交流プログラム	H24	18	19	126.9	5	17	4	15	1	2	13	2	13	2	0	0				
		H25	36	58		9	58	8	55	1	3	27	0	27	0	0	0				
		H26	40	50		14	50	13	47	1	3	26	0	26	0	0	0				
		H27	40	43		14	43	13	41	1	2	26	0	26	0	0	0				
		計	134	170		42	168	38	158	4	10	92	2	92	2	0	0				
京都大学	「人間の安全保障」開発を旨とした日アセアン双方向人材育成プログラムの構築	H24	15	30	79.3	15	15	15	15	0	0	0	15	0	15	0	0				
		H25	30	18		30	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
		H26	46	31		46	31	36	30	10	1	0	0	0	0	0	0			0	
		H27	54	36		54	36	38	33	16	3	0	0	0	0	0	0			0	
		計	145	115		145	100	119	96	26	4	0	15	0	15	0	0				
○神戸大学、大阪大学	ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成	H24	8	11	116.9	3	3	0	0	3	3	5	8	5	8	0	0				
		H25	21	24		16	24	10	18	6	6	5	0	5	0	0	0				
		H26	22	28		16	28	10	24	6	4	6	0	6	0	0	0				
		H27	26	27		20	27	12	27	8	0	6	0	6	0	0	0				
		計	77	90		55	82	32	69	23	13	22	8	22	8	0	0				
○愛媛大学、香川大学、高知大学	日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム	H24	31	2	83.5	31	1	25	0	6	1	0	1	0	0	0	1				
		H25	51	66		51	65	45	59	6	6	0	1	0	1	0	0				
		H26	69	58		69	52	56	46	13	6	0	6	0	6	0	0				
		H27	80	67		80	58	63	55	17	3	0	9	0	9	0	0				
		計	231	193		231	176	189	160	42	16	0	17	0	16	0	1				
○九州大学、早稲田大学	地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム	H24	40	37	94.2	15	15	15	15	0	0	25	22	25	21	0	1				
		H25	60	50		35	44	35	44	0	0	25	6	25	6	0	0				
		H26	62	62		37	46	35	46	2	0	25	16	25	16	0	0				
		H27	62	62		37	52	35	50	2	2	25	10	25	10	0	0				
		計	224	211		124	157	120	155	4	2	100	54	100	53	0	1				
慶應義塾大学	アジアの新興課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム	H24	20	7	47.7	5	0	5	0	0	0	15	7	15	7	0	0				
		H25	48	14		20	0	20	0	0	0	28	14	28	14	0	0				
		H26	60	4		33	0	30	0	3	0	27	4	27	4	0	0				
		H27	65	67		38	43	30	43	8	0	27	24	27	24	0	0				
		計	193	92		96	43	85	43	11	0	97	49	97	49	0	0				
明治大学	日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム	H24	50	17	113.0	45	17	40	10	5	7	5	0	5	0	0	0	0			
		H25	75	139		75	111	65	99	10	12	0	28	0	28	0	0	20			18
		H26	110	127		110	118	100	106	10	12	0	9	0	9	0	0	40			30
		H27	135	135		135	117	125	105	10	12	0	18	0	18	0	0	60			23
		計	370	418		365	363	330	320	35	43	5	55	5	55	0	0	120			71
合計			1499	1434	95.7	1173	1204	962	1119	219	117	326	230	330	231	0	2	120	71		
申請区分Ⅱ	千葉大学	ツイン型学生派遣プログラム(ツインクル)	H24	40	39	92.6	40	39	40	39	0	0	0	0	0	0	0	0	40	39	
			H25	80	76		80	76	76	76	4	0	0	0	0	0	0	0	80	76	
			H26	96	84		96	84	88	84	8	0	0	0	0	0	0	0	96	84	
			H27	96	90		96	90	86	90	10	0	0	0	0	0	0	0	96	90	
			計	312	289		312	289	290	289	22	0	0	0	0	0	0	0	312	289	
	名古屋大学	ASEAN地域発展のための次世代国際協働リーダー養成プログラム	H24	12	11	114.9	0	0	0	0	0	0	12	11	12	11	0	0	12	11	
			H25	52	56		10	23	0	17	10	6	42	33	42	33	0	0	16	16	
			H26	52	63		10	63	0	56	10	7	42	0	42	0	0	0	16	18	
			H27	52	63		10	63	0	56	10	7	42	0	42	0	0	0	16	12	
			計	168	193		30	149	0	129	30	20	138	44	138	44	0	0	60	57	
京都大学	「開かれたASEAN+6」による日本再発見—SENDを核とした国際連携人材育成	H24	16	54	175.0	0	12	0	12	0	0	16	42	16	42	0	0	8	41		
		H25	110	192		40	46	39	44	1	2	70	146	66	145	4	1	72	106		
		H26	83	170		42	52	39	49	3	3	41	118	39	113	2	5	56	100		
		H27	87	102		49	25	44	25	5	0	38	77	34	75	4	2	60	49		
		計	296	518		131	135	122	130	9	5	165	383	155	375	10	8	196	296		
九州大学	スパイラル型協働教育モデル:リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して	H24	5	22	203.5	5	20	5	20	0	0	0	2	0	2	0	0	5	22		
		H25	14	42		14	42	12	40	2	2	0	0	0	0	0	0	14	42		
		H26	26	56		26	54	20	53	6	1	0	2	0	0	0	0	2	26	56	
		H27	40	53		40	52	28	50	12	2	0	1	0	0	0	1	40	53		
		計	85	173		85	168	65	163	20	5	0	5	0	2	0	3	85	173		
早稲田大学	「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業	H24	0	19	75.3	0	0	0	0	0	0	19	0	19	0	0	0	0	19		
		H25	70	41		70	41	60	41	10	0	0	0	0	0	0	0	70	41		
		H26	78	60		78	60	68	59	10	1	0	0	0	0	0	0	78	60		
		H27	79	51		79	51	68	49	11	2	0	0	0	0	0	0	79	51		
		計	227	171		227	152	196	149	31	3	0	19	0	19	0	0	227	171		
合計			1088	1344	123.5	785	893	673	860	112	33	303	451	293	440	10	11	880	986		
総計			2,587	2,778	107.4	1,958	2,097	1,635	1,979	331	150	629	681	623	671	10	13	1,000	1,057		

別表2：プログラムごとの受入学生数(平成24年度採択)

(単位:名)

申請区分	大学	プログラム	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)												
				目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数						
							(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		
							目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	
申請区分Ⅰ	北海道大学	人口・活動・資源・環境の負の連鎖を転換させるフロンティア人材育成プログラム	H24	13	18	197.1	13	18	13	18	0	0	0	0	0	0	0	0	
			H25	30	40		30	40	12	28	18	12	0	0	0	0	0	0	0
			H26	30	72		30	72	12	41	18	31	0	0	0	0	0	0	0
			H27	30	73		30	73	12	33	18	40	0	0	0	0	0	0	0
			計	103	203		103	203	49	120	54	83	0	0	0	0	0	0	0
	東京大学	アジア都市環境保健学際コンソーシアムの形成	H24	0	16	346.7	0	0	0	0	0	0	16	0	16	0	0	0	
			H25	5	5		5	5	0	5	5	0	0	0	0	0	0		
			H26	10	31		10	24	0	14	10	10	0	7	0	7	0	0	
			H27	12	23		10	23	0	15	10	8	2	0	2	0	0	0	
			計	15	52		15	29	0	34	25	18	0	23	2	23	0	0	
東京医科歯科大学	東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム	H24	10	25	143.3	3	1	0	1	3	0	7	24	7	24	0	0		
		H25	21	36		9	6	6	6	3	0	12	30	12	30	0	0		
		H26	31	38		15	10	12	10	3	0	16	28	16	28	0	0		
		H27	35	40		15	12	12	12	3	0	20	28	20	28	0	0		
		計	97	139		42	29	30	29	12	0	55	110	55	110	0	0		
京都大学	「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築	H24	15	0	83.2	15	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		H25	30	49		30	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		H26	57	43		57	43	42	39	15	4	0	0	0	0	0			
		H27	65	47		65	47	39	38	26	9	0	0	0	0	0			
		計	167	139		167	139	126	126	41	13	0	0	0	0	0			
○神戸大学、大阪大学	ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成	H24	3	3	211.9	3	3	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0		
		H25	18	23		18	23	10	15	8	8	0	0	0	0	0			
		H26	18	40		18	40	10	32	8	8	0	0	0	0	0			
		H27	20	59		20	59	12	52	8	7	0	0	0	0	0			
		計	59	125		59	125	32	99	27	26	0	0	0	0	0			
○愛媛大学、香川大学、高知大学	日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニングプログラム	H24	28	19	89.0	28	19	19	14	9	5	0	0	0	0	0	0		
		H25	37	39		37	39	28	33	9	6	0	0	0	0	0			
		H26	55	51		55	51	37	39	18	12	0	0	0	0	0			
		H27	61	52		61	52	40	40	21	12	0	0	0	0	0			
		計	181	161		181	161	124	126	57	35	0	0	0	0	0			
○九州大学、早稲田大学	地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム	H24	25	22	73.5	0	0	0	0	0	25	22	25	22	0	0			
		H25	30	30		20	4	20	4	0	0	10	26	10	26	0			
		H26	48	27		38	9	35	8	3	1	10	18	10	18	0			
		H27	48	32		38	10	35	7	3	3	10	22	10	22	0			
		計	151	111		96	23	90	19	6	4	55	88	55	88	0			
慶應義塾大学	アジアの新興課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム	H24	16	4	82.6	0	0	0	0	0	16	4	16	4	0	0			
		H25	36	19		15	0	15	0	0	0	21	19	21	19	0			
		H26	55	42		33	0	30	0	3	0	22	42	22	42	0			
		H27	65	77		43	48	30	48	13	0	22	29	22	29	0			
		計	172	142		91	48	75	48	16	0	81	94	81	94	0			
明治大学	日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム	H24	50	10	89.4	5	10	4	8	1	2	45	0	45	0	0			
		H25	75	86		75	83	50	66	25	17	0	3	0	3	0			
		H26	105	115		105	85	65	53	40	32	0	30	0	30	0			
		H27	130	111		130	67	70	36	60	31	0	44	0	44	0			
		計	360	322		315	245	189	163	126	82	45	77	45	77	0			
合計				1305	1394	106.8	1069	1002	715	764	364	261	236	392	238	392	0	0	
申請区分Ⅱ	千葉大学	ツイン型学生派遣プログラム(ツインクル)	H24	5	0	205.9	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0		
			H25	41	84		41	84	25	84	16	0	0	0	0	0			
			H26	28	67		28	67	12	67	16	0	0	0	0	0			
			H27	28	59		28	59	12	59	16	0	0	0	0	0			
			計	102	210		102	210	49	210	53	0	0	0	0	0			
	名古屋大学	ASEAN地域発展のための次世代国際協働リーダー養成プログラム	H24	0	0	131.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
			H25	48	26		18	14	8	8	10	6	30	12	30	12			
			H26	48	70		18	61	8	54	10	7	30	9	30	9			
			H27	48	94		18	77	8	69	10	8	30	17	30	17			
			計	144	190		54	152	24	131	30	21	90	38	90	38			
京都大学	「開かれたASEAN+6」による日本再発見—SENDを核とした国際連携人材育成	H24	20	5	173.1	0	0	0	0	0	20	5	18	5	2				
		H25	42	103		14	11	13	4	1	7	28	92	27	83				
		H26	49	104		24	38	23	30	1	8	25	66	25	66				
		H27	49	65		23	29	22	25	1	4	26	36	26	36				
		計	160	277		61	78	58	59	3	19	99	199	96	190				
九州大学	スパイラル型協働教育モデル：リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して	H24	0	0	110.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		H25	20	35		8	6	0	5	8	1	12	29	12	29				
		H26	28	31		12	6	0	5	12	1	16	25	16	25				
		H27	32	22		12	6	0	5	12	1	20	16	20	16				
		計	80	88		32	18	0	15	32	3	48	70	48	70				
早稲田大学	「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業	H24	0	0	93.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		H25	64	56		64	56	60	56	4	0	0	0	0	0				
		H26	72	72		72	72	68	69	4	3	0	0	0	0				
		H27	74	69		74	69	68	52	6	17	0	0	0	0				
		計	210	197		210	197	196	177	14	20	0	0	0	0				
総計				2,001	2,356	117.7	1,528	1,657	1,042	1,356	496	324	473	699	472	690	3	9	